

奈良県指定文化財(彫刻・建造物)の「災害対策等現況調査」調査票

調査日	2018年	8月	19日	記入者	久門たつお
調査者名	小倉	久門	鈴木	仲谷	水間

調査対象先	旧吉川家住宅＝旧所在：橿原市中町				
所在地	大和郡山市矢田町545、県立民俗博物館・大和民俗公園			電話番号	0743-53-3171
代表者 調査対応者	県立民俗博物館総務課の森川龍太郎係長				
対象文化財	彫刻	県指定： 件	国宝： 件	重文： 件	
	建造物	県指定： 1 件 1 棟	国宝： 件 棟	重文： 件 棟	

地震対策

①対策の現況	<input type="radio"/> A:実施済	<input type="radio"/> B:一部実施済	<input checked="" type="radio"/> C:未実施
② ①の回答が A、Bの場合	対策の経緯、 内容		
	今後の予定		
	要望		
③ ①の回答が Cの場合	実施して いない理由	<input type="checkbox"/> 対策の必要がない <input type="checkbox"/> 資金が足りない <input checked="" type="checkbox"/> その他(大和民俗公園の古民家は文化的・建築的価値伝承のため移築復原したもので、形状を変える耐震補強はあえて行っていない。)	
	今後の予定	特にない。	
	要望	特にない。	

防火対策

①対策の現況	<input checked="" type="radio"/> A:実施済	<input type="radio"/> B:一部実施済	<input type="radio"/> C:未実施
② ①の回答が A、Bの場合	対策の経緯、 内容	旧吉川家住宅は入母屋造りの木造茅葺き平屋建てで、江戸中期の建築。屋根裏に火災感知器を設置、消火器を配備している。屋外に火災報知機、屋根上部に避雷針を設けている。	
	今後の予定	ポンプ室と防火水槽のセットは公園の2カ所に設け、各所の放水銃と連結しており、定期点検を進める。博物館・公園として大和郡山市消防と2年ごとに総合防火訓練を今後も継続していく。	
	要望	自作農の典型的な農家で、庄屋を務めたという。現在地での復原は1975年。茅葺き屋根は約40年ごとに更新する必要があるが、アライグマ被害も出ており、計画的に進めていきたい。	
③ ①の回答が Cの場合	実施して いない理由	<input type="checkbox"/> 対策の必要がない <input type="checkbox"/> 資金が足りない <input type="checkbox"/> その他( )	
	今後の予定		
	要望		

奈良県指定文化財(彫刻・建造物)の「災害対策等現況調査」調査票

調査対象先

旧吉川家住宅＝旧所在：橿原市中町

獣害・白アリ等の対策

① 獣害等被害	<input checked="" type="radio"/> A: 経験あり <input type="radio"/> B: 経験なし	
② ①の回答がAの場合	どのような被害か	アライグマが茅葺き屋根に昇り、屋根裏に入ろうと穴を開けているのが見つかった。外側柱にアライグマによる引っかき傷が散見される。
③ 今後	今後の予定、要望	雨漏りの心配があるので早期に応急修理したい。大和郡山市と連携してアライグマの駆除を進める。スズメバチの巣は発見次第に撤去し、随時駆除していきたい。

県指定の江戸中期建築の旧吉川家住宅

庇の屋根瓦が全体的に下がり、落下したものも



屋根裏の火災報知器(左)と消火器

避雷針(左)と火災報知機



茅葺き屋根に開いたアライグマによる穴(中央下)

【調査票記入者(久門たつお)の感想】



大和民俗公園の移築復原民家は11戸15棟あるが、多くがアライグマの被害を受けている。旧吉川家住宅も茅葺き屋根に穴を開けられ、雨漏りの心配もある。アライグマ対策は急務と痛感した。